

表2 ジャカイモ中のカロチノイド組成と含有量
($\mu\text{g}/100\text{g}$)

Carotinoid	分析1回目 アンデス赤	分析2回目	
		アンデス赤	セトユタカ
α -Carotene	1.1	—	—
β -Carotene	2.5	3.8	—
Lycopene	0.07	—	—
Neoxanthin	—	62.8	17.5
Violaxanthin	—	273.7	67.0
Antheraxanthin	—	2.5	—
Zeaxanthin	—	19.7	4.0
Total	—	362.5	88.5

品種決定調査に準じた諸特性調査を、県内各機関の協力で行った。

その結果、いもの休眠は「デジマ」と同程度に短く、春作、秋作に適することがあきらかになった。また、いもの空洞が少なく、皮の色が赤色で、肉色は「セトユタカ」よりも黄色が強く、内容成分的にはでん粉、粗たん白、ビタミンCが「セトユタカ」、「デジマ」と同等であった。

カロチノイドについて「アンデス赤」と「セトユタカ」（カロチノイドの高含有量品種）と比較した結果、 β -Carotene、Neoxanthin、ViolaxanthinおよびAntheraxanthin

などのカロチノイドは「セトユタカ」より格段に多く、カロチノイド総量で約4倍の含有量があり、高機能食品としても期待されることがあきらかになった（表2）。

6. おわりに

以上、岡山県のばれいしょ生産、特に種ばれいしょ生産の概要について記したが、このような特徴ある産地形成に至った背景には、採種組合長の先見性と人望が厚かったこと、採種組合員の所得向上を目指し、有利販売を心がけた結果である。また、他県にない特別な品種である「セトユタカ」、「ワセシロ」および「アンデス赤」の採種栽培ができるようになったことは、国の種苗課、種苗管理センター、植物防疫所、ばれいしょの育成元の長崎農試愛野支場、県内ではノートルダム清心女子大学、経済連合会、各普及センター、県のいも担当、農業試験場等の協力の結果である。

農協破たんのツケ自治体に

過剰融資や地域農業の低迷などで経営破たんした単位農協を支援するため、全国で九道県が無利子貸し付けや利子補給などの財政支援を今年度予算に計上していることが22日、朝日新聞の調査で分かった。総額は304億円にのぼる。また、債務超過の6農協を抱える岩手県が今年度の補正予算で52億円の無利子貸し付けの計上を予定するなど、支援総額は今後さらに膨らむ見通しである。

債務超過の全国の56農協は各都道府県に経営改善計画を提出し、早期是正措置に伴う業務停止命令を1年間猶予されたが、つげが自治体に回されている構図がはっきりした。

債務超過の農協が最多の8つを数える青

森県は143億円を同県農協中央会に無利子で10年間貸し付けている。中央会はその元手に基金を創設し、運用益で不良債権の償却を進めている。北海道と、福島、茨城、奈良、鳥取、熊本の各県も無利子や低利の貸し付けを実施し、7道県で総額は301億3千万円。

千葉県と大分県が、県農協中央会の借入金に対する利子補給や補助金として、計3億1千万円を計上しており、財政支援の総額は304億4千万円になる。

破たん処理を直接の目的としていないが、広域合併などを促進するため予算計上し、農協債務の処理につなげる自治体もあり、すべて合わせると支援総額は約413億円に達する。（平成10・4・23朝日新聞）